

福島県内初産出のアンモナイトを発見！

ポイント

- ① 福島県内初産出を含むアンモナイトを発見。
- ② 福島県いわき地方と北海道の恐竜時代の地層においてアンモナイト群集の共通性が高いことを示した。

概要

1 発見された化石の概要

- 種 類 (1)エゾセラス・エレガンス（福島県初発見 ※2022 年に日本古生物学会第 171 回例会発表）
(2)エゾセラス・ミオチュバキュラータム（福島県初発見）
(3)ユーボストリコセラス・インドパシフィックム
(4)シュードオキシペロセラス属の一種（福島県初発見）
(5)ヤベイセラス・オリエンタレ

発見地 福島県いわき市内・広野町内

地 層 双葉層群足沢層

年 代 中生代白亜紀後期チューロニアン～中期コニアシアン
(約 9140 万年前～約 8800 万年前)

2 共同研究グループ

村宮悠介（深田地質研究所）・猪瀬弘瑛（福島県立博物館）・歌川史哲（いわき市教育文化事業団）・
相場大佑（深田地質研究所）・安藤寿男（茨城大学）・大森光（茨城大学）・鈴木千里（いわき市在住）・
いわき自然史研究会

3 研究の概要

いわき市から檜葉町にかけてはアンモナイトを産する双葉層群足沢層が分布しています。いわき市アンモナイトセンターはこの足沢層の上に建っています。同館では一般の方向けに実際の地層で体験発掘を行っています。体験発掘で一般の方が発見した化石の中でいわき市と福島県立博物館に寄贈していただいたアンモナイトと、いわき市と広野町で産出したアンモナイトをあわせて共同研究グループで研究しました。そして、これらのアンモナイト化石の中にこれまで双葉層群から知られていなかった種が含まれていることが分かりました。2022 年には、日本古生物学会第 171 回例会で途中経過を発表しました。その後も研究を進め、2025 年 5 月 2 日に、日本古生物学会の国際学術雑誌「Paleontological Research」において論文として正式に発表されました。

4 発見の意義

エゾセラス・エレガンスとエゾセラス・ミオチュバキュラータムとシュードオキシペロセラスは、福

島県から初発見となります。これらを含めて、今回発見されたアンモナイトは、いずれも北海道の蝦夷層群と共通する種類です。この発見は、双葉層群のアンモナイト群集は北方（北西太平洋区）の特有種と南方（テチス区）の特有種が混合した群集であり、蝦夷層群など他地域で知られている同時代のアンモナイト群集の一般的な傾向と同じであることを示します。今回の研究には、いわき市アンモナイトセンターでの体験発掘で発見された化石も含まれています。一般の利用者の方々と研究者の協力によって、さらに双葉層群の化石の研究が進むことが期待されます。

5 展示

研究したアンモナイトは、福島県立博物館といわき市アンモナイトセンターで 2025 年中に展示する予定です。

6 論文情報

タイトル Five ammonoids from the Turonian/Coniacian (Upper Cretaceous) boundary horizon in the Ashizawa Formation, Futaba Group, Fukushima, Japan

著者 Yusuke Muramiya, Hiroaki Inose, Fumiaki Utagawa, Daisuke Aiba, Hisao Ando, Hikaru Omori, Chisato Suzuki and Iwaki Natural History Association

掲載誌 Paleontological Research
(https://www.jstage.jst.go.jp/article/prpsj/29/0/29_240009/_article/-char/en)

公開日 2025 年 5 月 2 日



図 1. 発見された 5 種のアンモナイト。

問い合わせ先

公益財団法人深田地質研究所 担当：村宮悠介

メール：muramiya@fgi.or.jp 電話：03-3944-8010